2015年度　里川文化塾

5年目に突入した「里川文化塾」

http://www.mizu.gr.jp/bunkajuku/

2015年度には第23回里川文化塾までを開催予定です。詳細が決まりましたらHPでご案内いたします（http://www.mizu.gr.jp/）

ミツカン水の文化センターでは、2011年度から「使いながら守る水循環」を学ぶ「里川文化塾」を定期的に開催しています。水にかかわるさまざまな現場を訪ね、あるいはテーマに基づいて、その分野の識者や実際に活動なさっている方々にお話を聞くというスタイルで続けてきました。2015年度は計4回開催します。この号がお手元に届いたときにはすでに終了している回もありますが、今後、ご興味のあるテーマのときにはぜひご参加ください。

第20回里川文化塾

埋め立てられた運河から水の記憶をたどる

東京都中央区に残る運河や運河跡を辿りながら、「水の都」と呼ばれた江戸・東京の水辺の歴史と変遷について再認識することを目的に開催したものです。
江戸時代から明治時代、さらに戦後の復興と高度経済成長によって、水辺の利用はどう変わっていったのかを学びました。特に1923年（大正12）の関東大震災、戦後の残土処理、そして1964年（昭和39）の東京オリンピックの影響が大きいことがわかりました。
午前中は首都高速道路や公園として利用されているかつての運河・水路の跡を辿り、午後は一部に掘割（佃川支川）が残る佃島に足を延ばし、「水の都」を再認識すると同時に、埋め立てられずに残っている運河・水路の今後の利活用について考えました。
くわしい実施報告はミツカン水の文化センターのHPで公開します。そちらも併せてご覧ください。

日時：2015年9月26日（土）10:00～16:00
フィールド：東京都中央区
三吉橋→入船橋→築地川公園→佃大橋（石川島灯台跡と住吉神社の鳥居）
→佃島渡船場跡→住吉神社→佃小橋→佃波除稲荷神社の力石→佃公園
座学会場：タイムドーム明石
講師：馬場悦子さん（ばば えつこ）　中央区教育委員会 文化財調査指導員
参加人数：24名

三吉橋から見た首都高速の出口。ここはかつて築地川だった

左：隅田川から佃大橋で左岸に渡り佃島へ
右：佃公園から見た掘割（佃島支川）と石川島の高層マンション群

第21回里川文化塾

和泉川で学ぶ　多自然川づくり 実践のポイントと継承の課題

「多自然川づくり」の思想をいち早く実践した先進事例「和泉川」を舞台に、「実践のポイント」および「年月を経たあとの継承の課題」について学びました。当時の川づくりにかかわった講師2名をお招きし、現地もご案内いただいたことで、多くの知見を得ることができました。

日時：2015年10月17日（土）10:00～17:00
フィールド：和泉川（神奈川県横浜市西部）
座学会場：三ツ境「eモール」
講師：吉村伸一さん（よしむら しんいち）
株式会社吉村伸一流域計画室　代表取締役
橋本忠美さん（はしもと ただよし）
株式会社農村・都市計画研究所　代表取締役

和泉川の二ツ橋付近で駆け回る子どもたち

第22回里川文化塾

関宿で学ぶ、江戸時代の舟運と産業

利根川と江戸川の分岐点である関宿を舞台に、江戸時代の関東地方の物流ネットワークの全体像と舟運が果たした役割、当時の産業などを学びます。利根川の水位に異常がなければ、午後は川船「高瀬舟さかい丸」による利根川・江戸川・関宿水閘門の遊覧を予定しています。

日時：2015年11月7日（土）9:30～17:00
フィールド：千葉県野田市&茨城県猿島郡境町
座学会場：千葉県立関宿城博物館
講師：尾崎 晃さん（おざき あきら）
千葉県立関宿城博物館 主任上席研究員

関宿水閘門から見た江戸川流頭部（利根川との分岐点）

水の文化 Information

■『水の文化』に関する情報をお寄せください
本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。
ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。
http://www.mizu.gr.jp/

■水の文化 バックナンバーをホームページで
本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

■里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで
里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。今後の企画についても、順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

メールマガジン配信中！

「里川だより」

ミツカン水の文化センターは、時期やテーマに沿ったさまざまな「水の文化」にかかわる情報を盛り込んだメールマガジン「里川だより」を配信しています。
「里川だより」では、機関誌の発行や里川文化塾の募集告知など、センターからの情報をいち早くお届け。１人でも多くの人にご覧いただきたいと考えております。
メールマガジンの配信をご希望の方は、タイトルに「水の文化センターメルマガ配信希望」と記載して「tokyo-office@mizu.gr.jp」までメールをお送りください。
ご連絡をお待ちしております！

編集後記

水辺・水空間の効果を再認識し、水との距離を縮めてもらえたらと、この特集を企画しました。滝、小舟、日本庭園等、取材陣が感じたことは伝わったでしょうか。PC、スマホ等で視覚と聴覚中心の生活から、取材では少しだけ五感を解放できたかも。また疲れたら滝めぐりや庭園めぐりを実践したいと思います。（後）

坂崎さんの案内のもと滝を鑑賞すると、滝の前で30分なんてあっという間に過ぎてしまった。「耳に手を当てる」鑑賞法は是非お試し頂きたい。滝の音に満たされ、様々な感覚が研ぎ澄まされ、次々と滝を楽しむ独自の視点が生まれてきた。勿論、明日へのパワーもしっかり得られた貴重な経験となった。（松）

「水」＝「癒し」。漠然と思い描いていたイメージの裏側を、様々な視点から探ることが出来て面白かった。今までそんなふうに意識したことはなかったが、今度「水空間」を訪れた際は、水特有の景色の移ろいに目を向けて、もっと能動的な楽しみ方をしてみたい。（原）

今号を読むと、「自分癒やし」の旅に出たくなる。マインドはもちろん、受け身の自分ではなく、能動的な自分で。その活力は明日を生きるパワーになる。何事も自分で積極的に働きかけることが、現代を生き抜く知恵。休みの日は「自分癒やし」を楽しもう。（吉）

健康ランドの取材後に風呂に浸かったが、リラックスだけではない高揚感を覚えた。同好会や演劇など好きな目的のために集う人たちの顔は活き活きとして、その空気に触れたことが影響したのだと思う。入浴だけでは得られない、相乗効果のようなものが生まれる場を体感した。（力）

憧れのカヌーを支笏湖で初体験。パドル操作に手こずりながら恐る恐る湖面に漕ぎ出します。しばらくして戻ろうとしたけれど、見えない渦に巻き込まれたのかカヌーがまったく進みません。焦ってパドルを振り回し、湖水をたっぷり浴びてしまいましたが、その一瞬、締切もなにもかも忘れて夢中になっている自分がいました。（前）

ミツカン水の文化センター機関誌
水の文化 第51号
ホームページアドレス
http://www.mizu.gr.jp/

発行
ミツカン水の文化センター
〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル 4F
株式会社 Mizkan Holdings
Tel. 03（3555）2607　Fax. 03（3297）8578

お問い合わせ
ミツカン水の文化センター 事務局
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町 1-11-3 中銀 NM・5F
Tel. 03（6264）9471　Fax. 03（6685）7596

発行日
2015年（平成27）10月

企画協力　（氏名50音順）
沖　大幹　東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄　水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信　法政大学教授
鳥越皓之　大手前大学副学長
中庭光彦　多摩大学教授

制作
後藤喜晃
松本裕佳
小林夕夏
原田朱野
吉田奈保子

編集製作
前川太一郎　編集

中野公力　デザイン・撮影

執筆
佐々木　聖（pp.12-19、pp.24-26）
手塚ひとみ（pp.6-9）
開　洋美（pp.10-11、pp.20-23）
前川太一郎（pp.27-32、pp.36-37）

撮影
大平正美（p6、pp.12-15）
川本聖哉（pp.4-5、pp.9-11、pp.20-23、pp.27-29）
鈴木拓也（pp.30-32、pp.36-37）
中野公力（pp.44-49）
藤牧徹也（pp.7-8、pp.16-19、pp.24-26、pp.38-43）

印刷
中埜総合印刷株式会社

※禁無断転載複写